

# 津ライスニュース 令和2年産第1報

令和2年4月17日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

## スクミリングガイ(ジャンボタニシ)対策

令和元年度は過去10年で最も発生が多い年でした。令和元年12月から令和2年2月にかけて、日平均気温が平年に比較して高く、暖冬であったことから、スクミリングガイの越冬率が高いことが推測されます。

今後、気温の上昇とともにスクミリングガイの活動が活発となり、移植後の水稲が被害を受ける可能性が高まりますので、以下のことに注意して管理を行いましょう。

管内において、4月16日時点で活動しているスクミリングガイを確認しています。

### 今後の管理

#### 1. 薬剤防除

- 1) 移植後、貝の活動を確認してから、表1の薬剤を散布してください。
- 2) 散布適期は、イネの被害が大きい移植後3週間までです。
- 3) 散布後は湛水状態を維持し、7日間は落水やかけ流しをさけましょう。
- 4) 水路など水田以外の場所には、散布できません。

表1 スクミリングガイに登録のある薬剤例(令和2年4月17日時点)

成分(薬剤名)	使用量	使用時期	使用回数	備考 ※
メタアルデヒド10%(スクミノン)	1~4kg/10a	収穫60日前まで	2回以内	殺貝剤
メタアルデヒド5%(ジャンボたにしくん)	1~2kg/10a	収穫60日前まで	2回以内	
磷酸第二鉄(スクミンベイト3)	2~4kg/10a	発生時	—	
チオシクロラム8%(スクミハンター)	1~2kg/10a	収穫45日前まで	3回以内	食害防止剤
カルタップ塩酸塩4%(パダン粒剤4)	4kg/10a	収穫60日前まで	6回以内	
	60~100g/箱	播種前または移植当日	1回以内	

※ 殺貝剤と食害防止剤を併用する場合は、殺貝剤を散布後7日以降に食害防止剤を散布しましょう。

殺貝剤を散布する前に、食害防止剤を散布することは控えてください。

#### 2. 耕種的防除

- 1) 田面の水が深い部分に集まる習性があるため、浅水で管理すると被害が少なくなります。(表1の薬剤で防除しない場合)
- 2) 入水口に貝が通れない大きさの目合いの網を張り、水路からの侵入を防ぎましょう。また、貝を捕殺し、卵塊は水面に落としましょう。その際、貝及び卵は素手で触らないようにしましょう。
- 3) 既に発生が多い水田で使用した農業機械は、作業後に十分洗浄し、未発生水田に貝を持ち込まないように注意しましょう。